令和７年度の研究
（２年次/２年計画）

令和７年４月

研究主題

自分の思いや考えを伝え合う姿を目指した授業づくり
～各教科等を合わせた指導の授業設計と授業実践を通して～
（２年次／２年計画）

Ⅰ　研究主題・副題の設定理由

（Ⅰ）研究主題及びⅠ年次副題の設定

本校の児童生徒は、友達や教師との関わりや会話を楽しんでいるが、自分の思いや考えを十分かつ的確に伝えることに課題が見られる。このことから各学部経営の努力事項には、その課題解決に向けて、言語能力の育成を図る取組や言語環境の整備が挙げられている。また、本校の地域に根ざした教育活動「横手が舞台」では、育てたい力の一つに「地域について発信する」があり、目指す児童生徒の姿を学部段階ごとに示している。さらに令和６年度の読書推進計画では、「読書活動から感じたことや思ったことを伝える姿」「日常生活の中で自ら考えたり判断したりして、言葉で表現する姿」を目指す姿としている。

以上のことを踏まえ、本研究の授業づくりで目指す姿を「自分の思いや考えを伝え合う姿」とした。この目指す姿は言語能力を発揮した姿であることから、研究Ⅰ年目は言語能力の育成の要である国語科を、研究対象の指導の形態として取り上げた。

なお、授業づくりにおいては、単元スパンで授業設計、授業実践、授業評価することを基本とし、チームで授業づくりすることをまとめた「横手のスタンダード」（平成 28 年度作成）を活用している。これまでの研究では、実態把握や単元設定、授業の構成が課題となっていることから、授業設計にも重点を置くこととし、研究Ⅰ年目は副題を「国語科の授業設計と授業実践を通して」とした。

（２）Ⅰ年次の研究成果・課題と２年次副題の設定

Ⅰ年次の研究では、児童生徒の「自分の思いや考えを伝え合う姿」をイメージして多角的な視点から実態把握や国語科の単元検討を行い、現在の児童生徒の姿から一つ先の姿を目指した授業づくりに取り組むことができた。また、児童生徒が安心して話すことができる雰囲気づくりや見本となる丁寧な言葉遣い、書字など、教職員の言語環境整備の意識を高めることができた。

しかし、国語科の学習グループの多くは少人数かつ教室で学んでいる。本校の教育目標にある「自立と社会参加」を目指すためには、集団や学びの場が変わっても「自分の思いや考えを伝え合う姿」を発揮できることが必要である。よって、言語活動の育成に向けて、国語科の取組や成果を他教科等に生かしていく必要がある。

２年次は、他教科の中から国語科の内容を含み、本校の教育課程の中心である各教科

等を合わせた指導を取り上げることにした。中でも、多くの時間を設定し、「自立と社会参加」に向けて必要な事柄を実際的・総合的に学習する指導の形態として、小・中学部は生活単元学習、高等部は作業学習を取り上げることにした。

2　「自分の思いや考えを伝え合う姿」の捉え

児童生徒が自分の思いや考えをもち、日常生活や社会生活及び将来の職業生活に向けた人との関わりの中で、相手に分かるように言葉や身振りなど、様々な方法や手段で伝えたり、表現しようとしたりする。また、相手の話を理解しようと聞いたり、聞いて理解したりする姿。（図１）

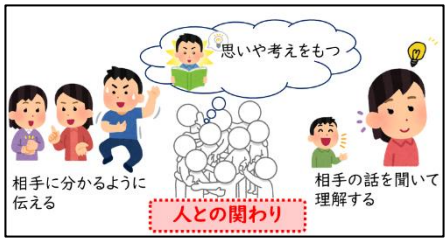

図１「自分の思いや考えを伝え合う姿」の捉え

3　研究内容と方法・計画

（１）研究の内容と方法

①全校研究会・学部研究会

・全校研究と学部研究の計画の検討、中間報告、今年度のまとめ（研究紀要の作成）
・研究対象の指導の形態と国語科の指導内容との関連の検討と共通理解
・言語環境整備に関する情報交換と情報提供、アンケート（全教職員）の実施

②全校授業研究会・学部授業研究会（「横手のスタンダード」を活用した授業づくり）

・授業設計：年間指導計画の検討及び単元検討会の実施
　教育専門監からの助言やＩＣＴ活用推進リーダー、授業づくりプロジェクト担当職員からの必要に応じた情報提供
　授業づくり要点リストの活用（R5～６授業づくりプロジェクトより）
・授業実践：全校研究授業の提示（各学部１回）
　学部研究授業の提示（各学部１～２回）
　※県南四校との連携（相互の授業参観、協議参加）
・授業評価：授業研究会（タブレット型端末を活用した協議）
・改善授業：学部提示、授業研究会

③研修会や計画検討等

・「横手のスタンダード」の共通理解、各教科等を合わせた指導の授業づくり研修会、研修報告会
・年間指導計画、個別目標の検討（年２回）と評価（年２回）
・全学級、全作業学習班の略案作成と授業提示（指導主事計画訪問）

（２）研究計画

月	全校・学部研究会	全校・学部授業研究会等	研修会及び計画検討等
4	24日 全校研究会① (研究概要提案、意見収集)	18日 教育課程説明会	18日 全校研修会① （「横手のスタンダード」の確認）
5	22日 学部研究会① （学部研究内容提示、研究対象の指導の形態と国語科の指導内容との関連の検討と共通理解）		26日～30日 教育資料作成期間① （年間指導計画と個別の指導目標の検討）
6	26日 学部研究会② （研究協議方法に関する共通理解とICT研修）	上旬　学習指導案略案の様式提示	
7		上旬　学習指導案正案の様式提示 夏季休業　単元検討会	２日　指導主事計画訪問 （全学級、全作業学習班の略案作成と授業提示）
8	４日 学部研究会③ （学部研究実施状況確認、言語環境整備に関する情報交換①） 22日 全校研究会② （研究の進捗状況の確認と推進の方向性の共有、言語環境整備に関する情報提供）		１日　全校研修会② （各教科等を合わせた指導の授業づくり）
9	下旬　【言語環境】に関するアンケートの実施（全教職員）	３日 全校授業研究会① (高等部) 改善授業※1の提示	24日～30日 教育資料作成期間② （年間指導計画の評価と見直し、前期個別の指導目標の評価と後期個別の指導目標の検討）
10		２８日 全校授業研究会② (小学部) 改善授業※1の提示	
11	10日 学部研究会④ （学部研究実施状況確認、言語環境整備に関する情報交換②）	26日 全校授業研究会③ (中学部) 改善授業※1の提示	
12	22日 学部研究会⑤ （学部研究の評価） 下旬　研究紀要原稿依頼		
1	26日 学部研究会⑥ （学部研究のまとめ）		26日　学部研究会⑤ （年間指導計画と後期個別目標の評価）

2	19日 全校研究会③ （全校研究の成果と課題の共通理解、次年度研究の提案） 中旬　研究紀要起案		
3	下旬　研究紀要完成、送付		12日 全校研修会③ （研修報告） （R7授業づくりプロジェクト経過報告他）
備考	・言語環境整備に関する情報交換 （学部研究会③、④）	＜全校授業研究会＞ ・県南四校との連携 （相互の授業参観、協議への参加） ※１改善授業は学部で実施し、他学部に参観を募る。 ＜学部授業研究会＞ ・各学部１～２回実施	